



第30号



FROM MAIL

関西 ECOMAIL

関西の学会員のみなさまに、ワークショップのお知らせと環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また、学会員以外の方々に、環境教育に関心をもっておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

年間1000円の通信費をいただきましたら、ワークショップの案内と関西 ECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振り込み先: 日本環境教育学会関西支部)

郵便振替口座 00990-5-37886

第48回 ワークショップのお知らせ

日時 3月9日(土) 14:30~17:00

会場 大阪教育大学天王寺キャンパス

本館1階南側S4教室(予定、当日会場内に掲示します)

(JR大阪環状線 寺田町駅下車、南出口を西へ徒歩3分)

話題提供者 山田卓三氏(兵庫教育大学)

テーマ 「環境教育をヒトの原点で考える」

「文明論」塾生募集

訂正と追加のお知らせ

前号8頁にお知らせの上記の塾生募集について、

日時: 3月25日(月)14時~16時(決定)

会費: 「日本の優生学」(本代)+飲み

物等で¥3000(初回のみ)

募集人数: 若干名

ワークショップ後、同会場内にて世話人会を予定しています。

第30号 目次

・連載企画<阪神・淡路発!被災地は今>

第4回 兵庫県南部地震と「人と自然の博物館」の活動

(戸田耿介 兵庫県人と自然の博物館) ... 2~3

・第46回 ワークショップ(1/13)の記録

「地球と生命」-自然写真を通して-

(中村 滋 自然写真家) ... 4~5

・第47回 ワークショップ(2/11)の報告

「世紀末の動向と環境教育」

(西本安範 21世紀パラダイム研究所) ... 6~7

・ネットワーク ... 8



連載企画〈阪神・淡路発！被災地は今〉

第4回

兵庫県南部地震と「人と自然の博物館」の活動

戸田耿介（兵庫県人と自然の博物館）

*博物館の被害

まず、当博物館が直接受けた被害をお話します。

昨年1月17日は、ちょうど振替休日明けの休館日でした。三田市内も大揺れがあったものの家屋の倒壊などはなく、博物館の建物も外見上は全くと言ってよいほど被害はありませんでした。

内部も、不安定な備品や書物の散乱はありましたが、滅茶苦茶と言うほどではなく、私たちが最も心配した収蔵庫のアルコールやホルマリン漬け標本類が一つも落下しなかったのは幸いでした。しかし、展示室の消火用スプリンクラーが破損したため3階部分の展示物や床が水をかぶり、さらに床の電気配線がショートして一時は職員や保守要員が水を汲み出す騒ぎになりました。また、壁に細かい亀裂が入ったため後日、燻蒸庫のガス漏れが発見されたりもしましたが、結局2週間ほどの休館で済みました。この間、全国の各方面からあたたかいご支援や励ましをいただき、深く感謝しています。

一方、地球科学研究部や環境計画部の研究スタッフは六甲山や市街地の被害状況調査に追われました。特に市街地調査に関しては、3月末までの復興計画案策定の資料を得るため連日連夜の現場調査と取りまとめに奮闘していました。このあたりの状況は多分、関連分野の大学や研究調査機関ではどこも同じ事情だったことでしょう。

*博物館員が取り組んだ調査・研究

当館の研究者が関わったり、現在も継続中の調査・研究や提言活動などは主に次のようなことです。

(1) 地震直後の土地の変動や被害状況の緊急調査、それらに基づく提言等。

ア. 地球科学研究部関係のもの

- ・墓石のずれから推定した有馬一高機構造線及び伊丹断層の兵庫県南部地震における活動状況
- ・淡路島北部・北淡町にあらわれた野島地震断層の地形測量調査
- ・六甲山地・山麓での被害－山麓部での被害の特徴
- ・兵庫県南部地震による有馬一高機構造線西域における被災情報速報
- ・神戸市長田区～北区の屋根瓦の破損状況と地質の関係
- ・市民の地震に対する意識からみた地学教育の問題と今後一人と自然の博物館来館者へのアンケート調査

イ. 環境計画研究部関係のもの

- ・「公園緑地等に関する阪神大震災緊急調査」・・・日本造園学会阪神大震災調査特別委員会の事務局を担当し報告書の概要等は各方面で発表された。
- ・神戸都心再生計画緊急提案の一部
- ・みどりとオープンスペースを生かした災害に強いまち提言
- ・公園緑地の果たした役割と今後の拡充提案
- ・阪神大震災 都市の再生－報告・提言・資料（日本都市計画学会）の一部

ウ、その他の研究部門でも個別の研究分野に関連して地震の影響調査やコンサルティングを行っています。例えば、私の場合は六甲山系の毎日登山会員や山上のレクリエーション施設への影響に関して調査中です。

(2) 博物館総合共同研究テーマ「兵庫県南部地震と六甲山系」のスタート

数百年に一度という直下型の大地震に見舞われたわけですから、その影響や今後の対策に役立つような基礎データを出来るだけ集めて分析することが課題になっています。そこで5つの研究部が総合的な視点から取り組む共同研究のテーマに「兵庫県南部地震と六甲山系」を取り上げ、昨年3月から調査を進めています。

その目的は、“六甲山系とその周辺部への地震の影響を地質、植物、動物、防災、環境教育等の視点から総合的に把握すること”あわせて六甲山系の自然環境の基礎資料収集を行うものです。

ここで得られた資料や知見は、都市に隣接する自然環境の保全・防災・都市計画に関する提言に生かしていく予定です。このテーマは今後3年間継続され、調査結果等は館の紀要「人と自然」や研究者が所属する学会等で随時発表されるはずですが、

*企画展「兵庫県南部地震を考える」の開催

今回の地震が起こったメカニズムや被害の特徴などに関して、上に述べた調査速報や現在判明している理論などを展示し解説し、市民の地震や地球に関する理解を深めてもらうことを目的に、昨年11月から本年3月10日まで企画展を開催中です。

期間中は専門家による3回の解説講座、地質や防災の研究グループや個人による調査研究報告のポスター発表また、県内の小中学生の震災体験記発表も行っています。さすがに、西日本の地震活動や活断層をテーマにした解説講座には数百人の市民が詰めかけ、地震に対する関心の高まりを強く感じました。

*これからの動き

“思索し行動し提言する”をスローガンに掲げる当博物館としては、震災復興に関与する具体的な提言や行動を進めています。

一つは、県や各市の復興計画策定のなかで地質や断層調査等のアドバイザー。二つ目に安全な街づくりのための主に緑地計画上での提言。これに関して今年1月には垣根緑化マニュアル「あなたの家の垣根からはじめよう・安全な環境づくり」を印刷配布するとともに、阪神グリーン・ネットワークの事務局を担当し仮説住宅の環境改善運動や都市計画事業における公園や街路の緑化コンサルティング支援などを始めました。

震災復興は道路や港湾などのインフラ整備が先行していますが、安全で住みやすい街づくりのためには今までと異なる、生活の視点からの土地利用計画や施設整備が求められています。博物館ではこの様な動きを支援する研究や提言・啓発にこれからも積極的に関わっていくことになると思われれます。

中村 滋（自然写真家）

今や地球的な規模で、生物の種の絶滅が危惧されています。近年の経済発展に伴う膨れ上がった商業は、大量生産、大量消費、大量廃棄を生み出し、過密な都市を形成しました。しかし、それらは間違いなく、さまざまな大きな問題を生み出してきました。環境破壊もそのうちの一つといえます。

大気汚染、水の汚染、土壌汚染、オゾン層破壊による紫外線の影響、森林破壊等による生息環境の破壊、あるいは商業主義による乱獲、外国からの導入種の影響等で、現在地球上で、年間約4万種の生物が絶滅しているといわれています。

日本でも、開発という名の自然破壊は、経済性優先のため、利用価値の少なくなった里山の雑木林や沼や池、湿地帯、湿原、干潟、等を優先します。しかしそこは生物にとって多様性に富んだ良好な生息地です。

さまざまな環境に適応して、姿を変えて生き残ってきた生物たちは、何万年も何十何万年もかけて体験する生態系の変化を、ほんの数十年で経験します。一部の生物はこの急激な環境の変化にも対応できるかもしれませんが、ほとんどの生物はついていけません。特に植物は動くことは出来ませんから、影響をまろにかぶります。直接あるいは間接的に、動物は植物の作った栄養を取って生きています。一種類の植物が減ると、それに依存する約30種の生物が絶滅するといわれています。そして植物は、酸素を作り、土を作り、空気を浄化し、水を保持します。環境を調和させることに大きな力を発揮しています。植物こそ生命の基礎といっても良いのかもしれませんが。

古代から人類は自然を愛し、自然と調和して暮らしてきました。心からあらゆるものをたたえ、全ての生き物は、人間のために生まれてきたのではない、人間のために作られたのではないということを悟り、全生命の平等な幸福と永続を願って生きてきました。生き物たちが、永い時間をかけ、世代を重ねて守り続けてきた、平和な暮らしを脅かしているのは私たち人類。そしてその種の存続も、人類に委ねられているということも忘れてはならないと思います。

私たちはあまりにも多くの生物を滅ぼしました。与えられた環境の中で精一杯生きている、けなげに花を咲かせている、そんな心の通う仲間たちをいじめていじめて、いじめぬいてこの社会を築き上げて来ました。

どんどん失われていく自然とともに、人の心からも優しさや思いやりが消えていきます。自然の営みの美しさ、不思議さ、たくましさ感動する心も失いつつあります。移り行く四季の情景に涙した素直な心も失われつつあるのがとても残念です。

土も木も岩も、水も空気も光も星も、そしてそこに暮らす全ての生物も、みんな命

の輪でつながっています。多様な生物が複雑に絡み合って、絶妙なバランスの上に生態系は保持されています。人類もその多様な生物の一構成員に過ぎないのです。一つの種が絶えるごとに、人類も一歩終わりに近づいていきます。

私たちは自分たちの命の問題を正しく把握しなければ、急速に地球上から滅亡する瀬戸際に来ています。この地球とお互い同士の破壊行為をやめ、私たちの生き方が、水や動物や空気に、そして互いにどんな影響を与えているか、はっきり認識する必要がありますのではないのでしょうか。

かけがえのない星、地球。太古から受け継いだこの水と緑の惑星を、私は次の世代へ、未来の子供たちへ、きれいなままで渡してあげたいと思います。

自然は安らぎを与えてくれます。傷ついた心を癒してくれます。堅くなった心をほぐしてくれます。自然からのこの素晴らしい贈り物は、体の、魂の、そして心のエネルギー源でもあるといえます。

そんなわけで、私は出来るだけ自然にふれることを提唱しています。自然保護活動や自然と関わる行事に参加すること、そしてもっとも大事なことは、全ての生命は一つであるということ学ぶこと、全ての生き物を尊重し、自然を愛すること、自然と調和し、共存できる生き方を学ぶことだと思います。

自然界に美しいものを見だし、自分の美的感覚、感情を鍛え、拡大していくことは、現代人にはとても大切なことだと思います。もし街角の小さな自然の中にでも可愛い花を見つけたら、立ち止まってゆっくり見てみてください。話しかけてみてください。写真を撮るとき、私も話しかけながら写します。土も木も岩も、小さな虫も花も、水も空気も光も星も心を持っています。心は通います、思いは伝わります。種の違いや言葉を越えて、時間や空間を越えて必ず伝わる。私はそう信じています。

◆私達に出来ること

1. 失われていく生物の生息地を確保する。
2. 無益な採取は避ける。（特に産卵期の雌はとらない）
3. 動物で作った装身具は買わない。
4. 無農薬野菜などを利用する。
5. 農薬、除草剤、殺虫剤、化学物質の使用を減らす。
6. 自然環境教育や専門家養成の場を設立する。
7. ライフスタイルや意識の転換をはかる。
8. 出来るだけ自然にふれる。（自然保護活動、自然と関わる行事等に参加する。）
9. すべての生き物を尊重し、自然を愛すること、自然と調和し共存できる生き方を学ぶ。

「第47回ワークショップ」（96年2月11日、大阪教育大学・天王寺キャンパスで、「世紀末の動向と環境教育」と題して話題提供をさせて頂く機会を頂きましたので話題提供の概要と重要と思われる項目の要点をご報告させて頂くことに致しました。

当日は、配布資料に基づきまして、「大自然の法則」、「世紀末の動向」、「21世紀へのパラダイム」、「環境問題の動向」、「環境教育の動向」、「環境教育の課題」などを報告させて頂きました。

「大自然の法則」では、中川昌蔵（「大自然の法則研究会」・会長）の諸説『「宇宙（自然）は物質世界（3次元）＋精神世界（4次元）で構成される波動の世界」、「人間は肉体＋心＋魂で構成され、魂は個性と波動を持ったエネルギーで転生輪廻をする」、「心は本能＋感情＋知性＋理性で構成され、良心は魂（神）が管轄する」、「想念はエネルギーで、4次元の世界に蓄積されて一定量に達すると3次元の世界に現象化する。怒り、憎しみ、恨み、嫉妬、強欲の想念は、不幸、不運、苦しみ、悲しみ、悩みなどの現象を3次元世界に起こす。強い憎しみ、恨みの想念は、地獄界の波動と同調して身辺に地獄界を現出し、イライラ、悲しみの想念は、幽界の波動と同調して、鬱病、対人恐怖症、ノイローゼなど霊的な障害を引き起こす。勤勉、親切、奉仕、感謝、思いやり、明朗、素直な想念は、波動が細やかで神の波動に近くて神仏の加護を受けやすく、愛、無我、悟りの想念は、神仏の波動と同調して物心両面にわたって豊かで平和な世界が現出する」、「大脳は左右2つに分かれており、左脳は3次元の物質世界に、右脳は4次元の精神世界に対応し、左右脳は脳梁という連絡路を持って左右調和しつつ働いている左脳は外部からの影響を受け、教育と体験を積むことによって成長し、自己中心的価値観で行動し、知性、合理的思考、科学、技術に対応して文明を作り出す。右脳は外部から教育することは出来ず、自己が自ら啓発し反省する自己教育のみによって成長し、ヒラメキ、未来予知、情緒、感性などに対応して文化を作り出す働きを持つ。表面意識は主として左脳の新皮質に記録された記憶と知識で、分析、計算、選択、批判する合理的能力があり、3次元の物質世界に対応する。潜在意識は主として右脳が活動して、見る、触る、測定できない、超合理的な4次元の精神世界に対応する」、「チャネリングは、4次元世界の霊が3次元の人間に通信をして来る現象であり、受信者をチャネラーと呼んでいる。霊媒の口を借りて死者の霊が語ったり、予言、自動書記など霊界通信と呼ばれているものは数多くあるが、一般的には高級霊からの通信は少なく、霊界の中級霊や地獄界の低級霊からの通信がかなりあり、鵜呑みにすることは危険で、チャネラーの人格や言動をチェックしないと騙されることになる』」を紹介させて頂いた。

「世紀末の動向」では、「地球規模環境とSD・SSシステム」、「世界の人口と食糧」、「異常気象」、「ガット・ウルグアイ・ランドと日本の農業」、「日本の経済」、「国際ユダヤ資本と日本」、「サイ科学系情報」、「阪神大震災」、「オウム真理教」などの項目を取り上げて、世紀末の動向を概観させて頂いた。

「阪神大震災」では、浅野信（国際ニューエイジ協会・代表）に「緊急リーディング」として寄せられた、『「天界から神々が怒りを発し、人類とりわけ日本人に対して警告を発したものです。これは、日本の国土ならびに日本人の浄化のためのものであり、必要があって生じたことです」、「ではどのような警告であったのでしょうか。それは”自然を大切に”という事の”お知らせ”なのです」、「神戸は典型的な人工都市で、自然を痛めつけるような街づくりをして、不自然で無理がある街を作ったことで、土地と樹木にダメージを与えたために、その所が刺激されて地震を引き起こしたのです」、「人間中心で利己的に生きて、自然を支配しようとしたり、利用しようとしてはいけない、ということを知らせるために起こりました」、「自然万物、生きとし生けるものすべてへの愛を持ちなさい。自然を尊重し、大切にし、自分達に都合が悪いから大切にするというのではなく、さらに進んで、自然そのものを愛し敬い尊び、自分達と同じ同胞であり、自然も私達と同じ一員であるから、自然を大切に、自然と共生して生きて行くよ

うにしなさい。自然を傷めない生き方をしなさい。自然も同胞であり、人々も人種も民族も越えて同胞であることを悟りなさい。そのような意識に変えて行きなさい。簡素で質素な自然と調和をした暮らし方に変えて行きなさい』や、大川隆法（幸福の科学・主宰）の『「阪神地方で起きた災害は、50年ぶりの悲劇ではあるが、これから起きるものを予想すると、今回の震災による被害は1%程度に過ぎない。もっともっと信じられない光景が、今世紀末から来世紀初頭にかけて現れる」、「阪神大震災は、最後ではなく始まりであり、世紀末の序章である」、「仏法の根本は縁起の理法にあり、全ての物事は原因があって結果が生じる。日本のみならず、世界各地に様々な災害が相次ぎ、予想しない病気が溢れるならば、それには必ず原因がある」、「地球は単なる土の塊ではなく、その中に”地球意識”（10次元惑星意識）という霊的生命が宿っている。”地球意識”は地球の生命体としての意識であり、地球上の様々な生物に魂修行の環境を提供するという使命を持っている。大規模な天変地異は、地上の人々の悪想念に対する、地球意識の浄化作用として起きている」、「人々の心の中にある、食欲の心、争いの心、恨みの心、他人を顧みない心、金銭や地位、名誉に対する欲望と執着、こうしたものが震災を起こす本当の原因である」、「天変地異の根本原因は、国民の民意にあり、選ばれて政をしている人達にもある」、「聖なるものを忘れ、騙った物質人間に対しては、厳しい天の試練が来るであろう」、「最終的な救済は魂の救済であり、心というものが人間の本質であることを知らなくてはならない」、「必要なことは、間違った価値観のもとに多くの人達が生きているということを心底気づき悔い改めることである」、「日本人の1億3千万人が、間違った価値観と生き方を心の底から反省し、正しい宗教的真理のもとに生きていくことを誓い、ユートピア建設のために起き上がらないかぎり、世紀末の混沌と危機は終わることがない』を紹介させて頂いた。

「オウム真理教」では、「幸福の科学」の主張として、『「オウム教の誤り（「5戒：不殺生、不盗、不邪淫、不妄語、不飲酒」や、「三輪清浄」（施者・受者・施物が清浄であること）の全てに反していることや、意図的な洗脳がある）」や、「1990年代に入り、無神論・唯物論に基礎を置いたソビエト社会主義共和国連邦や東欧の社会主義国が崩壊するなかで、宗教への回帰現象が世界的な規模で起こった。日本でもこれと前後して第5次宗教ブームが起こり、本格的な「宗教の時代」の幕が切って落とされた。ただし、こうした宗教ブームには2面性がある。健全で高度な思想によって社会の良識派といえる人びとの心をつかむ宗教が出てきた反面、ブームに便乗して、オウムや統一協会のような異常なカルト教団の暗躍ぶりも目につくようになった。後者は日本人の宗教的無知につけこんだカルトの暗躍であった」、「オウム教事件によって悪質なカルトへの警戒心が高まり、国民は宗教選択に対していっそう慎重になったが、それが宗教全体へのバッシング、警戒感へとつながり、宗教無用論、宗教性悪説などの短絡的議論が横行している。ひいては、世界の趨勢とは正反対に、唯物論・無神論勢力が息を吹き返し、国家による宗教全体への統制という完全な逆コースをあゆむ危険性が生まれているのである」、「宗教選択の7つの基準（入っている人がどうなるか、犯罪が減るか増えるか、その宗教の願いをみる、言葉の面からの検証、行為の面からの検証、生活態度からの検証、美による正邪の判断）」』を紹介させて頂いた。

「21世紀へのパラダイム」では、深野一幸（21世紀研究所・所長）、江本勝（MRA総合研究所・所長）、船井幸雄（株）船井総合研究所・会長）、高木善之（ネットワーク「地球村」・代表）の主張を紹介させて頂いた。

環境教育が対象としている「環境」は、「大自然の法則」に基づいて運営されている「環境」であるのが実相であると考えているので、今後も有益な情報を得て「統合科学（物質科学+多次元科学）」の視点に立った環境教育論を発展させて行きたいと考えている。

1996年2月25日 21世紀パラダイム研究所 西本安範
〒569高槻市千代田町1-1-616, TEL&FAX0726-74-6828

ネットワーク

◆ 日本環境教育学会全国大会

第7回全国大会が開催されます。大会に参加される方は、発表(講演)、ポスター展示の有無にかかわらず申込書に必要事項を記入の上、振替用紙にて諸経費を送金の上、お申込み下さい。

〈日時〉 5月11日(出)～12日(日)

〈会場〉 滋賀大学教育学部
〒520 大津市平津2-5-1

〈日程〉 ・1日目 記念講演(公開、参加無料)一般講演(口頭発表、ポスター発表)ミニシンポジウム・ワークショップ、総会、自由集会、懇親会
・2日目 一般講演(口頭発表、ポスター発表)ミニシンポジウム・ワークショップ、自由集会

〈参加費〉非会員5,000円 懇親会費4,500円。但し、2月1日以降の申込の方は参加費5,500円。懇親会費5,000円

〈申込法〉大会参加申込書、振替用紙をとりよせお申込み下さい。申込締切は1月31日(木) 但し2月1日以降も受け

〈問合せ〉大会実行委員会事務局・服部昭尚 0775-37-7852又は川嶋宗継
TEL FAX 0775-37-7743

〈申込〉 〒520 大津市平津2-5-1 滋賀大学教育学部内日本環境教育学会第7回全国大会実行委員会事務局

※当日、発表(講演)の方は、書式に従った講演要旨を2月29日(木)必着でお送り下さい。

◆ 河内長野みずすましフォーラム

〈日時〉 3月10日(日)10:00～17:00

〈会場〉 河内長野市立文化会館

〈内容〉 ・コンサート(水のメドレー)
・ビデオ「大いなる河の流れ」「愛華ちゃんの地球」
・セレモニー(絵はがきコンクール入賞者表彰式)
・講演「水のめぐみ わたしたちへの贈り物」映画鑑賞大林宣彦氏

〈申込法〉電話(ハガキも可)で住所、氏名、年令、電話番号を明示し申込んで下さい。定員1300名 先着順に受付。当日入場整理券が必要です。(後日郵送)

〈参加費〉無料

〈申込問合せ〉河内長野市環境下水道部環境保全課0721-53-1111内線415
〒586 河内長野市原町396-3

関西E C O M A I L

編集 日本環境教育学会 関西支部 世話人会

発行 日本環境教育学会 関西支部

事務局 大阪教育大学 環境科学教育研究室(鈴木善次研究室) 気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1 (TEL&FAX 0729-78 3381[直通])

次回 第31号 1996年4月25日発行予定 原稿締め切り4月15日

第30号 1996年2月29日発行